

飛驒牛生産誓い新た

ひだキャトル
ステーション 1期生・永瀬さん修了

飛驒牛の生産基盤強化を目指す昨年4月に開所した飛驒牛繁殖研究施設「ひだキャトルステーション」(飛



肥育と繁殖の技術を学び、修了証を受け取る永瀬智之さん(右)
〓 高山市冬頭町、JAひだ本店

驒市古川町中野)で、1期生の永瀬智之さん(19)〓高山市〓が研修を終え、「日本一の牛飼いになりたい」と目標を語った。

同施設は廃業した酪農牛舎を改修し、繁殖牛舎や子牛育成舎を備える。子牛を育てて出荷する生産施設と、研修施設の役割を兼ねている。JAひだ、飛驒市、JA全農岐阜が2018年に設立した「株式会社ひだ

キャトルステーション」が運営する。

19年度は繁殖雌牛80頭を入れ、子牛22頭が生まれた。通常の研修期間は2年だが、永瀬さんは実家の繁殖農家の仕事に早く取り掛かるため1年で修了した。同施設が修了生を輩出するのは初めて。

30日に高山市冬頭町のJAひだ本店で修了式があり、永瀬さんがJAひだの駒屋廣行組合長から修了証を受け取った。永瀬さんは「1年間の経験を生かして立派な農家になります」と誓った。
(稲木悠司)